

令和3年度第2回「北海道森林審議会」議事概要

1. 日時及び場所

令和3年12月17日(金)14:00~15:30

第二水産ビル8階8A会議室(オンライン併用)

2. 出席者

【委員】小泉会長 / 青山委員 / 有末委員 / 猪島委員 / 柿原委員 / 北川委員 / 北村委員 / 前田委員 / 松永委員 / 山口加津子委員 / 吉田委員

(委員 11 名出席)

【道側】佐藤水産林務部長 / 黒澤水産林務部次長 / 岡嶋林務局長 / 野村森林環境局長 / 土屋森林計画担当局長 / 関係課長ほか (道側 16 名出席)

3. 議事

(1) 地域森林計画の樹立及び変更について

森林法第6条第3項の規定に基づき知事から諮問のあった「地域森林計画(案)の樹立及び変更」について審議を行い、計画案のとおり答申することを決定

【委員の主な発言】

- ・ 留萌計画区では、齢級構成を平準化するために主伐期の林分を伐採して植えていく必要があるが、地域の原木需要が低い場合、地域外の製材工場と結びつけることは可能なのか。
- ・ 人工林の間伐に関する指針については目標となる林分も示されているが、天然更新の択伐に関する指針についても示すべき。
- ・ 人工林の標準伐期齢について、トドマツが40年、カラマツが30年などと設定されているが、多くの林分が既にその林齢を超えており、標準伐期齢を実態に合わせて見直すべき。

(2) 報告事項

① 北海道森林づくり基本計画の見直しについて

11月に公表した計画素案の内容、事前に委員から寄せられた意見等について説明

【委員の主な発言】

- ・ 計画素案では、一時的に資源が減る針葉樹資源の補完を広葉樹資源で行うように受け取れるところがあるが、どのように補完する考えなのか。

② 道有林基本計画の見直しについて

11月に公表した計画素案の内容について説明

【委員の主な発言】

(特になし)

③ 北海道森林吸収源対策推進計画について

10月に公表した計画骨子の内容について説明

【委員の主な発言】

- ・ 成熟した木を伐って新しい苗木を植えることでCO₂の吸収が促進されるが、植林後何年程度経過したら伐採前と同程度の吸収量になるのか。
- ・ 吸収量の多いクリーンラッチの供給本数が少ないので、植林面積の増加に合わせて苗木の生産も推進すべき。
- ・ HWPによるカーボンストックの量を増やすためには、建築物や土木分野などでの利用が効果的であり、関係機関との連携による推進体制をしっかりと構築すべき。

④ 北の森づくり専門学院について

北森カレッジ第1期生の就業に向けた取組やR4入学試験の状況について説明

【委員の主な発言】

(特になし)

⑤ 第44回全国育樹祭の開催について

10月に開催された第44回全国育樹祭の概要について報告

【委員の主な発言】

(特になし)